

教科	地歴	科目	世界史 A			単位数	2
学科	工業科	履修学年	3	コース	全学科	必修・選択	必修
教科書	『世界の歴史』(山川出版社)						
副教材等	『新世界史 A 研究ノート』(啓隆社)						

学習目標		近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。					
指導の重点		現在の日本を取り巻く世界情勢を、国際的視野から理解できることに重点を置き、国際社会の一員として、十分に活躍できる基本的常識を、歴史の面から、身につけられるように指導する。					
学 習 計 画	学期 (時数)	学習項目	学習内容(学習活動)			評価方法	
	1 学期 (20)	第 1 部 世界の一体化と日本 第 1 章 世界の諸文明 第 2 章 世界の一体化の始まり 第 3 章 近代の世界	自然環境, 生活, 宗教などに着目させながら, 東アジア, 南アジア, 西アジア, ヨーロッパに形成された諸文明の特質とユーラシアの海, 陸における交流を概観させる。 大航海時代のヨーロッパとアフリカ, アメリカ, アジアの接触と交流, アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制, 大西洋世界の展開とアフリカ・アメリカ社会の変容を扱い, 16世紀から18世紀までの世界の一体化の動きと近世の日本の対応を把握させる。			定期考査 ノート提出 課題提出	
	2 学期 (24)	第 2 部 地球社会と日本 第 1 章 急変する人類社会 第 2 章 帝国主義時代 第 3 章 二つの世界大戦 第 4 章 平和と冷戦	帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応, 二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格, それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ, 19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立と日本の動向, アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解させ, 核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察させる。			定期考査 ノート提出 課題提出	

	3 学期 (20)	第 5 章 現代世界と日本	1970年代以降の市場経済のグローバル化，冷戦の終結，地域統合の進展，知識基盤社会への移行，地域紛争の頻発，環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ，地球社会への歩みと地球規模で深刻化する課題について考察させる。	定期考査 ノート提出 課題提出
計 6 4 時間（5 5 分授業）				
評価規準と 評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究するとともに，国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとしている。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し，国際社会の変化を踏まえ公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し，有用な情報を選択して，読み取りたり図表などにまとめたりしている。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し，その知識を身に付けている。
	<p>[評価方法]</p> <p>以上の観点をふまえ、授業への取り組み（授業態度・学習活動への参加状況など、）課題の提出状況、定期考査などから、総合的に評価する。</p>			
学習の ポイント	<p>今後いつその国際化が進展していく中で、国際社会の一員として、世界各地で活躍するに必要な常識的知識を身につけることを目的としている。そのために現代国際社会のおかれる現状を歴史的な観点から把握する。</p>			